



データ保護管理

Amazon FSx for NetApp ONTAP

NetApp
September 02, 2024

目次

データ保護管理	1
FSx for ONTAPのバックアップスケジュールを更新	1
長期保持のためのスナップショットの有効化と編集	1
レプリケーション関係の反転	2
ソースボリュームのレプリケーションスケジュールの変更	3
レプリケーション関係の最大転送速度を制限する	3
レプリケーション関係のSnapshotデータの更新	4
レプリケーション関係を停止する	4
レプリケーション関係を削除する	5

データ保護管理

FSx for ONTAPのバックアップスケジュールを更新

FSx for ONTAPのバックアップスケジュールを必要に応じて更新

手順

1. にログインします。 "[Workload Factoryコンソール](#)"
2. [ストレージ]で、*[ストレージインベントリに移動]*をクリックします。
3. [FSx for ONTAP]タブで、ファイルシステムの3つのドットメニューをクリックしてバックアップスケジュールを更新し、[管理]*を選択します。
4. [Information]で、*[FSx for ONTAP backup]*の横にある鉛筆のアイコンをクリックします。FSx for ONTAP backup *行の上にマウスを置くと、ドロップダウン矢印の横に鉛筆のアイコンが表示されます。
5. FSx for ONTAP backup *ダイアログで、以下を指定します。
 - a. 毎日の自動バックアップ：この機能を有効または無効にします。この機能を無効にした場合は、*適用*をクリックします。この機能を有効にする場合は、次の手順を実行します。
 - b. 自動バックアップ保持期間：自動バックアップを保持する日数を入力します。
 - c. 日次自動バックアップウィンドウ：設定なし（日次バックアップの開始時間を選択）または*日次バックアップの開始時間を選択*のいずれかを選択し、開始時間を指定します。
 - d. 週次メンテナンス時間：設定なし（週次メンテナンス時間の開始時間を選択）または*週次メンテナンス時間30分の開始時間を選択*のいずれかを選択し、開始時間を指定します。
6. [適用（Apply）] をクリックします。

長期保持のためのスナップショットの有効化と編集

長期保持のためのスナップショットを有効にする特定のスナップショットを長期のディザスタリカバリのためにレプリケートできます。

長期保存により、サイト全体に障害が発生してもビジネスサービスの運用を継続できるため、アプリケーションをセカンダリコピーを使用して透過的にフェイルオーバーできます。

長期保持のためにスナップショットを有効にして編集する場合も、同じ手順が適用されます。

手順

1. にログインします。 "[Workload Factoryコンソール](#)"
2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、変更するレプリケーション関係スケジュールの3つのドットメニューをクリックします。

6. [長期保持の編集]*を選択します。
7. [Edit Long-term retention]ダイアログで、長期保持用のSnapshotを有効または無効にします。
8. 長期保持用のSnapshotを無効にする場合は、*[適用]*をクリックしてこの処理を完了します。
9. スナップショットを長期保持用に有効にする場合は、既存のポリシーを選択するか、新しいポリシーを作成するかを選択します。
 - a. 既存のポリシーの場合は、ドロップダウンメニューから既存のポリシーを選択します。
 - b. 新しいポリシーを作成するには、次の項目を指定します。
 - i. ポリシー名：ポリシー名を入力します。
 - ii. * Snapshotポリシー*：Snapshotポリシーを1つ以上選択します。
 - iii. 保持するコピー：ターゲットファイルシステムで保持するSnapshotコピーの数を入力します。
10. [適用 (Apply)]をクリックします。

レプリケーション関係の反転

レプリケーション関係を反転して、ターゲットボリュームをソースボリュームにします。

レプリケーションを停止してターゲットボリュームに変更を加えたら、それらの変更をソースボリュームにレプリケートできます。このプロセスは、一時的にターゲットボリュームを操作し、ボリュームの役割を切り替えるディザスタリカバリシナリオで一般的です。

タスクの内容

レプリケーションを反転および再開すると、ボリュームのソースとターゲットの役割が切り替わります。ターゲットボリュームが新しいソースボリュームになり、ソースボリュームが新しいターゲットボリュームになります。逆方向の処理では、新しいターゲットボリュームの内容も新しいソースボリュームの内容で上書きされます。レプリケーションを2回反転すると、元のレプリケーション方向が再確立されます。



最後のデータレプリケーションが行われてからソースボリュームが無効になるまでの間に元のソースボリュームに書き込まれたデータは保持されません。

開始する前に

新しいターゲットボリュームでの変更は新しいソースボリュームで上書きされるため、ソースボリュームとターゲットボリュームの現在と将来の役割を把握しておいてください。誤って使用すると、意図しないデータ損失が発生する可能性があります。

手順

1. にログインします。 ["Workload Factoryコンソール"](#)
2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、レプリケーション関係の3つのドットメニューをクリックして反転します。

6. [関係を反転]*を選択します。
7. [Reverse relationship]ダイアログで、*[Reverse]*をクリックします。

ソースボリュームのレプリケーションスケジュールの変更

レプリケーション関係にあるソースボリュームのレプリケーションスケジュールを変更します。

ソースボリュームからレプリケートされたボリュームにSnapshotを転送する頻度を、目的のRPO（目標復旧時点）に合わせて選択します。

手順

1. にログインします。 "[Workload Factoryコンソール](#)"
2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、変更するレプリケーション関係スケジュールの3つのドットメニューをクリックします。
6. [レプリケーション間隔の編集]*を選択します。
7. [レプリケーション間隔の編集]ダイアログで、ソースボリュームからSnapshot転送を実行する頻度を選択します。次の周波数のいずれかを選択できます。
 - 5分ごと
 - 毎時
 - 8時間ごと
 - 毎日
 - 毎週
8. [適用（Apply）]をクリックします。

レプリケーション関係の最大転送速度を制限する

レプリケーション関係の最大転送速度を制限します。転送速度に制限がないと、他のアプリケーションやネットワークのパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

タスクの内容

最大転送速度の制限はオプションですが、推奨されます。制限がないと、ネットワークとアプリケーションのパフォーマンスが低下する可能性があります。

また、FSx for ONTAPファイルシステムは、主にディザスタリカバリに使用されるワークロードなど、重要なワークロードには無制限の転送速度を推奨します。

開始する前に

レプリケーションに割り当てる帯域幅を検討します。

手順

1. にログインします。 "[Workload Factoryコンソール](#)"
2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、レプリケーション関係の3つのドットのメニューをクリックして、の最大転送速度を制限します。
6. [最大転送速度の編集]*を選択します。
7. [Edit max transfer rate]ダイアログで、* Limited *を選択し、最大転送制限をMB/秒単位で入力します。
または、*無制限*を選択します。
8. [適用 (Apply)]をクリックします。

レプリケーション関係のSnapshotデータの更新

レプリケーション関係にはレプリケーションスケジュールが設定されていますが、ソースボリュームとターゲットボリューム間で転送されたSnapshotデータは必要に応じて手動で更新できます。

手順

1. にログインします。 "[Workload Factoryコンソール](#)"
2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、更新するレプリケーション関係の3つのドットメニューをクリックします。
6. [今すぐ更新]*を選択します。
7. [更新]ダイアログで、*[今すぐ更新]*をクリックします。

レプリケーション関係を停止する

レプリケーションを停止すると、ソースボリュームからターゲットボリュームへのスケジュールされたレプリケーションの更新が一時停止します。ターゲットボリュームは読み取り専用から読み書き可能に移行します。

手順

1. にログインします。 "[Workload Factoryコンソール](#)"

2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、停止するレプリケーション関係の3つのドットメニューをクリックします。
6. [Break]*を選択します。
7. [Break replication]ダイアログで、*[Break]*を選択します。

ボリュームのレプリケーションステータスが「* broken *」に変わります。ターゲットボリュームが書き込み可能になります。

レプリケーション関係を削除する

レプリケーション関係を削除すると、ソースボリュームとターゲットボリューム間のレプリケーション関係が削除されます。レプリケーション関係が削除されたあとも、両方のボリュームに含まれる現在のデータとは独立して存在し続けます。

レプリケーション関係を削除すると、FSx for ONTAPはソースボリュームとターゲットボリュームの共通のレプリケーションスナップショットも削除します。

手順

1. にログインします。 ["Workload Factoryコンソール"](#)
2. [Storage]で、*[Go to storage inventory]*を選択します。
3. [FSx for ONTAP]タブで、更新するファイルシステムの3つのドットメニューをクリックし、[管理]*を選択します。
4. ファイルシステムの概要で、*[レプリケーション関係]*タブを選択します。
5. [Replication relationships]タブで、削除するレプリケーション関係の3つのドットメニューをクリックします。
6. 「* 削除」を選択します。
7. [関係の削除]ダイアログで、*[削除]*をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。